

東京神學大學報

T O K Y O U N I O N



T H E O L O G I C A L S E M I N A R Y

No. 334

OCTOBER 10, 2025

●夏期伝道実習壮行礼拝説教

「いったい、この方はどなたなのだろう」 日本基督教団 遠州教会 牧師 石 井 佑 二

●受験志願者募集のご案内

東京神学大学 教授 田 中 光

●博士課程後期課程研究発表会の報告

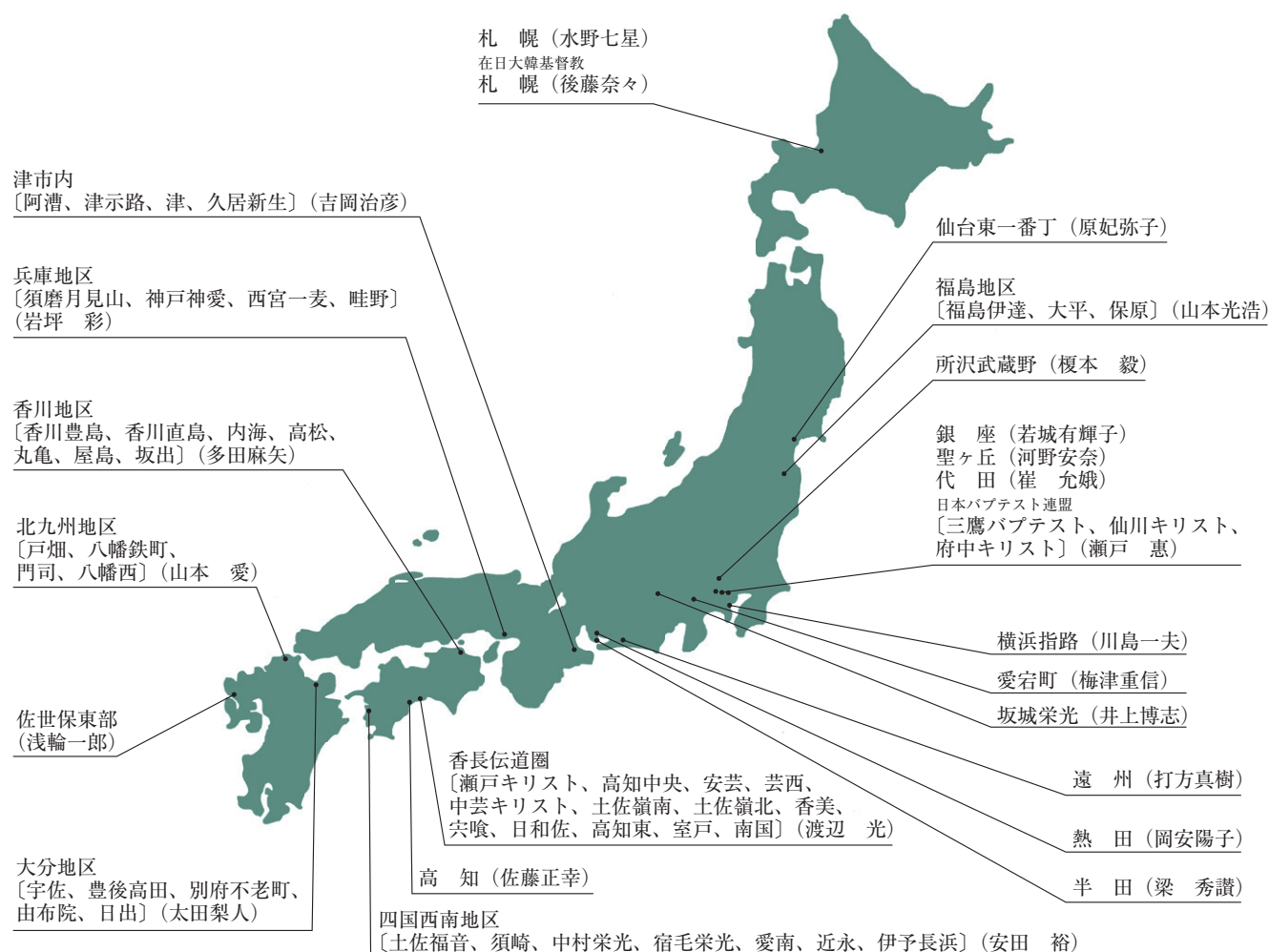
日本基督教団 春日部教会 牧師 平 澤 巧

●夏期伝道実習報告

●2026 年度入学者選抜 11月入試：11月24日

2月入試：2月10～11日

3月入試：3月3日



夏期伝道実習先教会

東京神学大学ホームページをご覧ください。

<https://www.tuts.ac.jp/>

「いったい、この方はどなたなのだろう」

ルカによる福音書 第8章 22～25節

日本基督教団 遠州教会 牧師 石井 佑二



主イエスは弟子たちに言われます。「湖の向こう岸に渡るう」「新しい地に行こう」と言うのです。夏期伝道実習に派遣される皆さん、新しい船出を思うでしょう。これから伝道者としての道を歩む時、それはいつも新しい船出の連続です。しかしその船出は主イエスと共に果たされる船出であることを憶えたいのです。

しかしその嵐の舟の中で、23節、主イエスは眠っておられました。弟子たちは嵐の中で必死に舟を守ります。困難と不安が迫って来る。しかしそこで、主イエスは何もしてくれない。眠っている。たまりかねて弟子たちは言います。「先生、先生、おぼれそうです」。私たちが不安の極にあるのに、それを放っておかれるのですか。そう言っ、眠る主イエスを起こします。そして主イエスは嵐をお叱りになり、嵐は静まりました。

ここにあるのか」と言われた。このお叱りの言葉、これは「あなたがたは、誰を信じているのか」ということです。だから弟子たちは言うのです。25節後半「いったい、この方はどなたなのだろう。命じれば嵐も波も従うではないか」。弟子たちは、この方が誰であるか分からなかった。しかし主イエスは、そのことを分からせようとしてくださったのです。「いったい、この方はどなたなのだろう」。その様に問い続け、その問いを、明らかにさせようとするのです。

た、それと同じ叫びです。弟子たちは、主イエスから叱られてしまいました。しかしそのお叱りの言葉は、弟子たちの信仰の弱さを良く理解し、同じ弱さを十字架によって共にし、「あなたの信仰を支える」。その思いが込められたお叱りの言葉であつたのです。

学長室から
学長 神代 真砂実

先の教団総会から1年が経とうとしています。推薦正議員として出席していましたが、ある議案をめぐる意見の中で、議員の一人が日本基督教団信仰告白の聖書に関する部分について、「逐語霊感」を語っているのが断じて受け入れられない（従って、教団信仰告白も受け入れられない）という趣旨の発言をしていました。話には聞いていましたが、実際に耳にしてあつげにとられ、発言の機会を求め損ねてしまったことを後悔しています。

聖書の霊感について、神が記者達に、書かれなければならないことをそのままに聖霊によって指示したと理解するのが「逐語霊感説」です。その場合、聖書は、そのまま永遠不変の絶対な神の言葉として一言一句文字通りに受け取られなければならないとなります。原理主義が生じます。しかし、それが聖書の霊感についての唯一の理解であるわけはありません。教団信仰告白にしても、聖書はキリスト証言であると述べており、「証言」であるということは、聖書を信仰に立つ人間の証しとして、従って、具体的歴史的状況等を反映しているものとして理解できるということでもあります。

幅広いを持つ教団信仰告白に極めて狭い特定の解釈を押しつけて断罪し、それによって教団信仰告白と、それを重んじる立場とを排除しようとする類の議論は、教団信仰告白自体の姿勢に矛盾するものだと考えます。

東京神学大学受験志願者募集のご案内

「主は言われた、『彼らを滅ぼそう』と。／しかし、主に選ばれたモーセは／主の前で破れ目に立ち／滅ぼそうとする主の憤りをそらせた」(詩編 106 編 23 節、聖書協会共同訳)。

この詩編の言葉は、イスラエルの救済の歴史を振り返る中で、いわゆる「金の子牛事件」のことを歌います。イスラエルの民は、シナイ山に登ったがモーセを待ちきれなくなって、偶像を鑄造して拝み始めます。その罪を目の当たりにしたモーセは、主の前で「破れ目に立ち」、執り成しをしたと言われています。印象的な言葉です。

伝道者の職務には様々なものがありますが、その中でも、モーセのように、「破れ目」に立ち、人々のために執り成しをするということは重要な職務の内の一つではないでしょうか。もっとも、私たちはモーセのように執り成しができるわけではありません。しかも、私たちは、唯一無二の執り成し手であられる主イエス・キリストの救いの御業と祈りによって救われた者であって、私たちの執り成しによって誰かを救うことはできません。しかしそれにもかかわらず、伝道者は、執り成しを祈ることで、神の救いの御業に参加させていただくことができるのです。だからこそ使徒パウロも、伝道者の卵であったテモテに勧告しています。「願いと祈りと執り成しと感謝とをすべての人のために献げなさい」(I テモ 2:1) と。

破れを抱えたこの世界において、破れ目に立ち、執り成しを担う伝道者が今こそ必要とされています。伝道者は教会のため、そして世界のために執り成しを祈りつつ、託された罪の赦しの福音を全ての人に語り伝えるよう召されています。皆さんのところに、そのような伝道者としての召しが届いていないでしょうか。あるいは、伝道者ということだけでなく、信徒として、執り成しを祈り、福音に生きる者として、更に研鑽を積むようにとの召しが届いていないでしょうか。是非とも、このことをお考えいただきたいのです。皆さんの中にそのような招きを受けられた方がもしおられれば(あるいは献身について少しでも考えておいでの方がいらっしゃいましたら)、是非東京神学大学で学ぶことをお考えになってみてください。そしてそのことについて祈りを深め、また教会の牧師先生に相談して、祈りの時を持っていただきたいと思います。

東京神学大学でどのような学びをするのか、どのような生活を送るのか、色々と不安がおりかもしれません。その場合には、遠慮なく東京神学大学にお問い合わせください。教務課主任の須田拓先生や教務課副主任(入試担当)の私がお相談をお受けいたします。また、12月6日(土)にはオープン・キャンパスも予定されています。そこで神学生としての学びについて(小泉健教授によるショート・レクチャーがございます)、あるいは学生生活について(学生寮のこと、学校の施設のこと、奨学金のことなどについて説明の機会がございます)より良く知ることができるようでしょう。

実際に受験をされる方のために、手短に東京神学大学の入試の制度のことについてお話させていただきます。高等学校を卒業した人・大検に合格した人は学部入学試験に、そして短大・大学を卒業した人は3年次の編入学試験に応募することができます。既に神学の学びを通して、神学士、あるいはそれと同等と認められる人は、大学院博士課程前期課程を受験することができます。更には、キリスト教の高校・大学に在籍されている方には、「指定校推薦」による受験も備えられています。以上の入試は11月、2月、3月と三回行われます。ご自分が希望される入試がいつ行われるかは、大学のHPなどで確認できますし、またより詳しい出願方法などについてお知りになりたい場合には、大学のHPのメールアドレスなどを通して、募集要項をお取り寄せください。

東京神学大学は基本的に伝道者の養成をその主要な目的としておりますが、しかし近年の教会の実情と必要に応じて、「神学研修志望」というコースを設けております。これは、卒業後も信徒として広く教会に仕えることを目指す方に学部の学びの場を開放するものです。牧師配偶者や、教会の役員・長老として教会にお仕えしておられる方をはじめ、様々な仕方で教会に仕えることを希望される方が、このコースの対象です。入学後に伝道献身者としての召命が与えられれば、伝道献身コースに変更することもあり得ますし、実際にそのようなケースがあります。神学研修志望について更にお知りになりたい場合には、大学のHPをご覧ください。

東京神学大学を卒業された方々は、基本的には教会の牧師として伝道に赴かれることになります。しかしそれだけではありません。全国のキリスト教中高において聖書科の教師として働く方、あるいはキリスト教大学の宗教主事などとして働かれる方がおられます。その他、海外宣教に遣わされる方、医療機関や社会福祉施設のチャプレンで働かれている方もおられます。

戦争や災害をはじめとしたこの世界を不安に陥れる様々な出来事に囲まれながら私たちは日々を生きています。このような中で、多くの人々が生と死についての根本的な問いを抱えているのではないのでしょうか。復活であり、命であられるイエス・キリストの福音を届け、この世界の救いのために執り成しを祈る人が今こそ必要です。皆様の内にこの務めへと召されているという確信が与えられている方がおられましたら、是非、東京神学大学で共に学び、研鑽の時を分かち合いたいと願っています。



東京神学大学 教授
入試担当 田中 光

「終末論と存在論—— T・F・トールンス、E・レヴィナス、 J・ジジウラス」

日本基督教団 春日部教会 牧師 平 澤 巧



本研究では、トーマス・F・トールンス(1913年～2007年)の業績を二つの時期に分け、後期の「神学的科学」へと至る前期の「教義史家」(ジェイソン・ラドクリフ)としてのトールンス像の模索を試みた。ラドクリフによれば、教義史研究という方法は歴史家自身の問題意識を反映する。ゆえに、神学的科学へと至る過程を教義史的方法によって再解釈することは、私たちはなぜトールンスを読むのか、という問いに変換される。

宗教改革者の終末論を論じた『王国と教会』において、トールンスは宗教改革の神学を二本の系譜で理解する。①ラテン教父からルターへ、②ギリシア教父からカルヴァンへ。

ルターの終末論は、現在を強調する特殊な時間論に由来している。ルターは、義人であり罪人である信仰者が「霊的統治」と「世俗的統治」の二重の領域に位置づけられるとする弁証法的な二王国論を展開し、この事態を「神の国」という終末論的用語によって語った。「神の国」は「信仰の王国」とも呼ばれ、現在の信仰生活との関連で理解された。本研究は、ルターによる終末論の現在化を、初期カール・バルトやパウ・アルトハウスの現在の終末論の萌芽と推定する。

カルヴァンへの橋渡しとして、トールンスはマルティン・ブツァーの思想に注目する。ブツァーは、「キリストの王国

(Regnum Christi)」との鍵語によってキリスト論的な神学を展開した。焦点は受肉の出来事である。受肉の御子において世界に突入したキリストの王国は、いまだこの世との闘争状態にあるため、将来における完成を期待せねばならない。ルターが霊的統治と世俗的統治を区別し、「信仰の王国」としての霊的統治に集中した(「すでに」の終末論)のに対し、ブツァーは、受肉のキリストに照らして、将来における世界の完成に関心を持った(「いまだ」の終末論)。ただ、ブツァーにおいて、キリストの王国とすでに置かれた地上の教会との関係ははっきりしない。

そこで、「いまだ」の終末論と教会との関係を語るカルヴァンが注目される。カルヴァンは、御言の説教なしには霊的な統治はありえないと考えた。御言と御霊の不可分性は、教会がキリストの王国と関わるための特有の手段である。(すでに)の教会論と「いまだ」の将来的終末を、聖霊と結びつく御言の宣べ伝えが橋渡しするのである。ルターが弁証法的な現在の終末論を展開したのに対し、カルヴァンは、キリストの王国が終末の完成と勝利へ至る途上を歩んでいると理解し、そこにキリストの体なる教会が位置づけられる。

近藤勝彦は、『キリスト教義学』において、トールンスのブツァー論から「神の世界統治」の文脈を読み取り、「救済史的終末論」を展開している。将来を強調し、「いまだ」の完成を本質とす

る歴史理解を形成したモルトマンやパネンベルクを批判して、近藤は、「救済史」的終末論、すなわち「いまだ」の完成を見据えつつ、「すでに」の啓示に基づく終末論を語ろうと試みる。その際、近藤は救済史を神の活動そのものであるとし、「神のオイコノミア」、すなわち三位一体の経綸に注目する。対してトールンスは、かつて『キリストの仲保』改訂版において、贖罪を三位一体の「永遠の存在」との関連で語っていた。果たして救済史は神の「経綸」としてのみ記述されるのか。あるいは、私たちは救済史に神の「存在」を見出しうるのだろうか。

積極的に存在論を語る神学者が、ジョン・ジジウラスである。ジジウラスは、神の存在を「位格の交わり」と定義し、根拠としてカッパドキア教父に注目する。曰く、カッパドキア教父たちは、ヒュポスタシスを人格(hypostasis)と同一視することで、三位でありながらおひとりの神について語ろうとした。三位の優先というジジウラスの解釈は、歴史的に不正確であるとして度々批判されてきた。が、本研究ではあえて、ジジウラスの主張の今日的な応用可能性を考察した。ジジウラスは神の存在を「愛」とも同定するが、それは哲学的存在論の問題への解決として企図されている。

坂口ふみは、『「個」の誕生』において、カッパドキア教父のヒュポスタシスと、エマニュエル・レヴィナスが用いたイポスターズ

(hypostase)との関連に触れる。どろどろしたものというヒュポスタシスの原義から、液体からの固体の出現として説明されるイポスターズは、匿名性の内に現れる「匿名でないもの」を意味する。興味深いのは、レヴィナスがある限定された意味で終末について語ったことである。第二次大戦の捕虜収容所での経験から、レヴィナスは戦争の惨禍に「終末」を見た。終末を「存在という無名の事実」と名指しするレヴィナスは、さかのぼって匿名でないものを発見しようとする。終末からの遡行は、パネンベルクの終末論と奇妙にも接近している。

ユダヤ人であったレヴィナスは、マルティン・ハイデガーの存在論を批判した。曰く、あらゆるものを「存在」にまとめあげるハイデガーは、存在「匿名的なもの」への服従を強制する……。レヴィナスは、「存在」という無条件の同化の原理が、異なるもの「他者を排除するとして、ここに全体主義の危険を読み取った。

神学が存在論を取り入れるならば、何らかの意味でレヴィナスの批判を免れねばならない。ジジウラスによれば、カッパドキア教父は、存在論に他者が決定的であることを示した。ジジウラスは、他者によって基礎づけられる存在論を目指した。転じて、神の内在を「存在」と呼ぶトールンスの存在理解はどのような肯定できるか、その是非を論じることを今後の課題としたい。

< 2025 年 夏期伝道実習報告 >



浅輪 一郎



梅津 重信



渡辺 光



若城 有輝子

「遣わされる日のために」

学部4年 若城 有輝子

初めての夏期伝道実習、さらにわたしの遣わされた銀座教会は、日本でも有数の規模と長い歴史を有しており、わたしのような者に実習が務まるのだろうかとの不安でいっぱいでした。しかし高橋先生ご夫妻をはじめ教会員の皆さまの温かい笑顔に迎えられ、そのような心配はすぐに消し飛んでしまいました。

実習では、現場の先生のお働きを目の当たりにすることができました。なかなか知ることもない日曜日以外の牧師の仕事ですが、それこそ多忙！の一言につきるものでした。特に高橋先生は教会外の多くの役職も担われていますが、そのような中にあっても常に微笑みを絶やさず、また雑多なことも厭わずご用をこなされる様に、献身についてまた自分の姿を省みずにはいられませんでした。また実習では神さまの言葉を語ることの難しさ、そして生ける神さまを語ることの重大さに気づかされました。聖書を凝視しても、たくさん注釈書をひっくり返しても、語る言葉が出てこないことに焦りを感じつつ、ギリシャ語やヒブル語、教義、教会史に釈義など東神大での学びのすべてがまさにこのことのためであることに気づかされました。一ヶ月と短い期間ながら、この実習はまさに入学前に頂いた東神大のパンフレットのタイトル「遣わされる日のために」であったことにより、思うに夏となりました。

「一つの大きなキリストの体」

学部4年 渡辺 光

今回の夏期伝道実習では四国の香長伝道圏に派遣され、13の教会および伝道所を訪問いたしました。日本基督教団の教会での初めての奉仕に緊張していましたが、牧師先生および信徒の皆様は他教派に属する私を暖かく迎えてくださり、安心して実習を行うことができました。香長伝道圏では各地の教会がお互いに支え合うことによって、一つの大きなキリストの体を形成している様を見ることができました。また福音宣教のために立場や考え方の違いを乗り越えて、多くの教会や学校と協力しながら地域に仕えている姿から福音宣教の働きにおける謙遜の重要性を学ばせていただきました。

今回の実習の中で特に印象に残ったのは、四国の地で長く教会生活を守ってこられた方々の信仰の輝きと説教奉仕に対する先生方の熱意です。礼拝への出席人数が少ない厳しい現状の中でも、キリストの福音への期待に満ちている信徒の方々の姿に大きく励まされました。また信徒の方々の期待に応えるべく、御言葉の奉仕に非常に熱心に取り組んでおられる牧師先生方の姿に、説教奉仕に対する自身の姿勢を正される思いでした。香長伝道圏の先生方ならびに信徒の皆様のおかげで、学びと思いが満ちた一ヶ月間を過ごすことができました。心より感謝申し上げます。

「遣われるその日に備えて」

大学院1年 梅津 重信

今期私は山梨県甲府市の愛宕町教会で、宍戸俊介牧師の下、伝道実習を受けた。実習の内容は、教会の行事出席のほか、聖愛幼稚園職員の祈祷会や母親の聖書勉強会の出席、峽南教会(代務)礼拝出席、及び私自身の礼拝説教や聖書研究会等の奉仕であった。

実習中、先生は私の質問に丁寧に答えて下さった。その中の説教作成については、先生から説教ノートを見せて頂き、作成過程、所要時間、註解書等を教えて頂いた。先生の語る姿勢は、「牧師の考えが絶対ではない、最終的には神様と信徒個人の問題になる。信徒には、しっかりと信仰を掴んでいる人もいるが、掴めない弱い人もいる。弱い信仰であっても、聖霊がその人を支えて下さる。私は、その一人をも拾っていききたい」と語られた。

研修のメインは7回の聖書研究会であった。毎回私が選んだ詩編から、私の聖書解説30分、出席者の質問30分、先生からの質問と解説30分の計90分で進めた。毎回とても鍛えられた。

特に私が注意を受けたのが聖書の読み方であった。牧師ではなく、信徒の読み方になっているとの指摘を受けた。信徒は正しさを確認しながら読むが、牧師は自分の読み方が間違っていないか確認しながら読んでいく。そのために註解書がある、と教えて頂いた。他にも様々なことを教えて頂いたが、これからその一つ一つを確認していききたい。

「地域の方々と共に」

大学院1年 浅輪 一郎

今年度の夏期伝道では、佐世保東部伝道所において、学びの機会を頂きました。佐世保東部伝道所は、光の子福祉会が運営する認定こども園、学童クラブケアハウス、特別養護老人ホーム、グループホームといった様々な施設の精神的な中心に位置付けられた伝道所であり、そのいずれも地域のニーズに応えるあり方で始められていました。私は、実習中、牧師の「勉強になるから」というお誘いを受け、いくつかの施設において体験学習をさせて頂きました。自戒の意味を込めて「サンデークリスチャン」という言葉が思い起こされますが、これらの体験を通して、改めて「福音とはそもそも誰のための福音なのか？」ということを考えてさせられました。そして「主に頂いた恵みは、週のその他の日々にも地域の方々と分かち合われなければならない」とも思わされました。

当たり前と言えば、当たり前のことなのかもしれませんが、それでも私は佐世保東部伝道所での日々を通して改めてこのような学びをさせて頂いたのだと思います。このような機会を与えられましたこと、心より末瀬先生ご夫妻、伝道所の皆様、各施設の皆様に感謝すると共に、何よりも主の導きに感謝致します。

東京神学大学 オープンキャンパス 2025

日時：2025年12月6日(土)9:00～(受付8:45～、個別の受験相談は11:45頃から開始予定)

◆ 東京神学大学に来校 または 一部分オンラインでの参加 ◆

ショート・レクチャー 神学の学びの奥深さに触れます。

礼拝 神学校生活の“霊的中心”を体験できます。

学校紹介 神学生が東神大の魅力をお伝えします。

入試説明 受験の準備と心構えについてご説明します。

懇談 神学生との交流の機会です。

受験相談 教員が個別の相談に応じます。

プログラムの詳細や最新の情報も
HPでご確認いただけます。



◎ 事前申し込み制です！

Web からの申し込みは 
www.tuts.ac.jp/admission/



東京神学大学 教務課入試係

〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-30

Tel：0422-32-4185 Fax：0422-33-0667

E-mail：tuts@tuts.ac.jp

▼10月から始まる

公開夜間神学講座のご案内▲

月曜日(10月27日) 全6回

「礼拝と説教」

講師 小泉 健

金曜日(10月17日) 全6回

「現代神学入門」

講師 須田 拓

月曜日(1月19日) 全6回

「やさしいヒブル語入門」

講師 宮寄 薫

金曜日(1月16日) 全6回

「相互牧会ケア」

講師 ウェイン・ジャンセン

* * *

会場…日本基督教団銀座教会
時間…午後6時～8時
定員…各講座30名

聴講を希望される方は、夜間講座事務局までお問い合わせください。
2026年度パンフレットは、12月下旬にお届けできる予定です。

◎お問い合わせ・お申し込み・資料請求

東京神学大学 学外活動委員会(夜間講座事務局)

0422-13214185

学 事 往 来

9月1日	公開夜間神学講座2学期開始
9月12日	大学院修士論文提出締切
9月16日	後期始業式、始業講演・宮崎 薫常勤講師、神学生出席教会の牧師と教授会との懇談会
11月17日	後期授業開始
9月27日	日本伝道を担う青年の集い
9月30日	夏期伝道実習報告会
10月17日	11月入学者選抜願書受付期間
11月4日	全学修養会
11月24日	11月入学者選抜実施日
11月26日	11月入学者選抜合格発表
12月6日	オープンキャンパス

公 務 出 張

10月17日	後期授業開始
9月27日	日本伝道を担う青年の集い
9月30日	夏期伝道実習報告会
10月17日	11月入学者選抜願書受付期間
11月4日	全学修養会
11月24日	11月入学者選抜実施日
11月26日	11月入学者選抜合格発表
12月6日	オープンキャンパス

《訃 報》

2026 年度 学生募集



東 京 神 学 大 学

「いかに美しいことか、山々を行き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え、救いを告げ、あなたの神は王となられた、とシオンに向かって呼ばれる。」
(イザヤ書 52 章 7 節)

	出願期間	試験日	選抜区分
11月 学部	2025年11月1日(土)～7日(金)	2025年11月24日(月・振替休日)	指定校推薦型入学者選抜
	2025年10月17日(金)～24日(金)		指定校推薦型編入学者選抜 編入学者選抜
2月 大学院	2026年1月6日(火)～13日(火)	2026年2月10日(火)	一般選抜 編入学者選抜
		2026年2月10日(火)11日(水)	博士課程前期課程 博士課程後期課程 ・聖書神学専攻入学者選抜 ・組織神学専攻入学者選抜
3月 学部	2026年1月27日(火)～2月3日(火)	2026年3月3日(火)	一般選抜 編入学者選抜

資料請求 東京神学大学 〒181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-30
お問合せ 用務課入試係 Tel: 0422-32-4185 Fax: 0422-33-0667
E-mail: tuts@tuts.ac.jp URL: https://www.tuts.ac.jp/

告 知 板

第 54 回 教職セミナー案内

主 題: 「祈り」
日 時: 2026 年 1 月 6 日 (火) ～ 8 日 (木)
場 所: 国立オリンピック記念青少年総合センター
渋谷区代々木神園町 3 - 1
◇小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約 7 分
◇地下鉄千代田線 代々木公園駅下車
徒歩約 10 分
主題講演、シンポジウム、特別講演、分団協議
参加費用: 4,000 円 (施設使用料、昼食費含む) 部分参加
の場合でも同額です。
申込方法: 本学ホームページをご覧ください。
申込締切: 12 月 12 日 (金)
問い合わせは、本学学外活動委員会まで
※宿泊に付きましては、参加者ご自身で近隣の宿泊施設を
ご予約ください。

二〇二五年十月十日発行
東京神学大学報・三三四号
〒181-0015 東京都三鷹市大沢三一〇-三〇
東京神学大学広報委員会
電 話 〇四二二-三三二一四一八五
F A X 〇四二二-三三二一〇六六七
郵便振替 〇〇一五〇一五〇三三二
https://www.tuts.ac.jp/

松本紳一郎氏
2025 年 6 月 18 日逝去されま
した。77 歳。(2010 年東京
神学大学院修了)
甲賀 道生氏
2025 年 6 月 22 日逝去されま
した。92 歳。(1958 年東京
神学大学院修了)
山内 眞氏
2025 年 7 月 6 日逝去されま
した。84 歳。(1967 年東京
神学大学院修了)
新渕千枝子氏
2025 年 8 月 2 日逝去されま
した。82 歳。(2000 年東京
神学大学院修了)
加藤 (高橋) 陽一氏
2025 年 8 月 11 日逝去されま
した。58 歳。(2001 年東京
神学大学院修了)
椿 憲一郎氏
2025 年 8 月 23 日逝去されま
した。88 歳。(1963 年東京
神学大学院修了)